

たけた

市議会だより

2011.11.1

No. 25



「八雲払い」大蛇の討伐シーン



「天のつばさ」の様子



城原夜神楽

城原八幡社で10月8日、恒例の夜神楽が奉納されました。「城原夜神楽を盛り上げる会」の主催によるもので、市の重要無形文化財に指定されている城原神楽の幽玄・勇壮・迫力ある舞に、市内外から訪れた多くの人が酔いしれていました。

行財政改革の成果徐々に!!

予算特別委員会委員長 岩屋 千利

去る9月15日、26日の両日、第3回定例会予算特別委員会が開催され、付託された平成23年度竹田市一般会計補正予算（第4号）について慎重審査した結果、全会一致で可決されました。

今回の補正予算は、歳入歳出ともに9億5885万1千円を増額し、予算総額を189億2510万3千円とするもので、特徴としては平成22年度の決算剰余金7億8250万4千円が含まれており、その内2億8673万7千円が緊急経済浮揚対策事業として、それぞれの費目に計上されています。

経済浮揚対策事業を含めて歳出の主なものは、竹田市単独の雇用創出事業として地域雇用再生特別基金積立金に8千万円、財政調整基金積立金として4億円、企業誘致対策費として用地造成工事請負費等に2331万5千円、児童福祉費では児童扶養手当として494万3千円、清掃費では電算機器等の購入に1323

平成23年第3回定例会予算特別委員会報告
9月補正予算総額 9億6千万円
経済浮揚対策関連事業に 2億9千万円

財調基金積立 4億円
雇対策基金積立 8千万円
基金繰戻し 8千万円

万円、肉用牛繁殖経営支援事業費補助金等の畜産業費に1205万6千円、道路維持や新設改良、災害防除等の道路橋りょう費として7628万円のほか、消防庁舎の建設に伴う各種調査や設計監理等の委託料として1526万8千円、公民館や分館の改修等に6249万5千円、公債費として大分県振興資金等長期債の繰上償還金1億268万1千円が計上されています。

一方歳入では、地方交付税のうち普通交付税が2億9109万9千円、前記の決算剰余金7億8千万円余を前年度繰越金として増額計上しており、基金からの繰入は8358万円が減額計上されています。



予算特別委員会

議会改革調査特別委員会報告

議会改革調査特別委員長 伊藤 孝信

9月9日

第16回特別委員会

議会報告会の開催については、5月に佐伯市議会における開催状況を現地調査したところですが、7月26日には大分市議会を訪問し、議会改革の取組について調査いたしました。これらの調査結果を踏まえ検討を行った結果、委員会として議会報告会を開催すべきとの方向性を確認したので、これについて各会派の意見をとりまとめ、次回の委員会で引き続き検討することになりました。

大分市での視察風景
議会改革について調査(7/26)

9月20日

第17回特別委員会

議会報告会の開催について、各会派とも開催そのものに反対する意見はありませんでしたが、残りの任期内に開催可能かどうかを心配する声がありました。これらを踏まえ検討した結果、委員会としては、3月定例会終了後の早い時期に試行的に開催すべきとの結論に達しました。その際には、議会からの報告よりも市民の声を聞く時間を長く取るべきとの意見もあったことから、「意見交換会」の名称で開催することとし、その開催地域や班編成などの具体的な事項については次回の委員会で引き続き検討することになりました。

8/4 議会改革研修会を開催
(講師：全国市議会議長会 本橋法制参事)

一般質問

平成23年第3回定例会では、9月8、9日の2日間に7名の議員が一般質問を行いました。その内容を要約してお知らせいたします。

なお、原稿は議員本人が執筆しています。



阿部 雅彦 議員

ジオパーク構想事業について

阿部 県のジオパーク構想事業に対する市の取組は。

企画情報課長 竹田市を含む県内5つのエリアの調査や周辺地域の動向を見極めて対処したい。

各種懇話会や審議会等の取組について

阿部 懇話会や審議会等の話合いの内容や出された方針を市民にもっと情報開示をし、「透明性」のあるものにできないか。

総務課長 市民の目線に立ち、市民との情報共有をする中で、より多くの市民の声を政策に反映させることは市の責務と考えてはいるが、さら

に多くの市民に会議への出席をお願いしたい。

地域雇用創造推進事業（第2次パッケージ事業）について



「生き活き興起雇用創出大作戦!」
公開セミナー“寄り合い”の様子(10/22)

阿部 市にとって重要な課題である「健康・福祉・環境」の3つの分野で取り組む本事業での行政の立ち位置と関係各課の連携をどのように考えているか。

企画情報課長 最大の行政課題として、庁内プロジェクト会議を設置し事業を推進したい。

商工観光課長 雇用や起業のための仕組みづくりを支援したい。

保険課長 市ならではの地域福祉や人材育成に積極的に取り組むため、連携を強めたい。

福祉事務所長 暮らしのサポーターの仕組みづくりや人材育成等地域福祉の充実を図りたい。

健康増進課長 健康づくりのインストラクター養成等将来の市の事業に活用していきたい。

環境衛生課長 森林資源やBDF（廃食用油）の活用等循環型社会を共に目指していきたい。

大学連携・産学官連携推進事業の取組について

阿部 大学連携の受入れ窓口の設置や官民が連携した組織づくりを考えてはどうか。

企画情報課長 政策実現や市の発展のために、真摯に受け止めて検討していきたい。



吉竹 悟 議員

農業情勢について

吉竹 耕作放棄地の現状・農業従事者の年齢動向・認定農業者数は。営農組織の現状は。

農政課長 市内の耕作放棄地面積は、1087ha。22年度65歳以上は60%。10年間で農業従事者は620人の減である。「耕作放棄地再生利用緊急対策事業」などの補助事業を活用し、農地を再生し集積を進める。認定農業者数は、656人。5

年間で13人の減。高齢化で再認定が厳しい経営体が多い。所得400万円を目指す。今後は、家族経営体の育成と「集落営農組織及び法人化」の支援を図る。小規模農家には、6次産業化や少量多品目の生産対策を検討する。

久住校の存続について

吉竹 農業専門校久住校について、議会も全会一致で存続活動を行うことを確認した。市一体的な活動が必要ではないか。

市長 久住校を育てる輪は広がりを見せている。「久住校を育てる市民の会」を立上げ要望活動と久住校の応援をしたいとの声が寄せられた。実績は素晴らしいものがある。久住校の発展を願い、議員・市民の協力をお願いしたい。



農業専門校 久住校の存続を!

地域交通の現状と今後

吉竹 バス路線廃止に伴う乗合自動車への補助額はいくらか。市内における交通空白地域や高齢者の通院・買物等一体的対策が必要、今後の政策は。

企画情報課長 コミュニティバス市内7路線、久住〜長湯経由大分行、竹田南部乗合自動車2路線で3210万円。豊後大野に跨ぐ5路線に346万5千円。住民代表やバス・タクシー事業者の代表で「地域交通会議」を開始した。新しい公共交通サービスの導入議論を重ねていく。

このほか、地域コミュニティの現状と課題について質問をした。



河野 泰浩 議員

産廃処分場計画について

河野 設計計画の事前協議書受理とはどういう意味があるのか。

環境衛生課長 産廃処理に関する条例・規則で知事に協議しなければならぬ。市町村の長に通知し意見を聞かなければならないとなっている。(詳細略)

河野 建設反対協議会の設立は。

直入支所長 建設予定地地元分団の自治会長、関係自治会長、地権者、商工会、ツーリズム協会、旅館組合の代表者に説明、協議。産業廃棄物処理施設建設反対対策協議会が設立され、反対署名1729名を市長に提出。

河野 場所は直入町字筒井原で直入町部から3キロ上の高台で全てのゴミが持ち込まれる。知事が却下し白紙になったが市の今後の対応は。

市長 業者は諦めていないが、市民の意向を反映するのが私の使命。今後も断固拒否していく。

河野 県下には処分場がいくつもあり、事故もある。経営が破綻して放置された処分場もある。杵築では県が代執行で片付けた。県下で3例目。こうした状況を踏まえて、進出させないよう議会も反対決議すべき。



産業廃棄物処理施設建設反対対策協議会が設立され、反対署名を市長に提出

県立三重総合高校久住校の存続について

河野 生徒数が80人を2年連続で割ると募集停止とあるが、80人の根拠は。総務課長 県教委の高校改革推進計画・後期再編整備計画による。

市長 日本一の農業高校にする気概で市民の声を集約し、県教委に重要性和存続の意義を訴えていく。

原子力発電事故・安全神話とヤラセについて

河野 経産省原子力安全保安院が玄海、伊方、浜岡、泊原発でヤラセをした。こうして安全神話が作られた。学校教育でどう教えていくのか。

学校教育課長 新学習指導要領では中学理科で原子力の利用と課題と題し、3ページにわたり環境や人体に触れた内容がある。

ほかに安愚楽牧場について質問した。



徳永 信二 議員

新消防庁舎建設事業について

徳永 建設予定地が現在地となっているが、選定箇所を含め懇話会での具体的内容は。



8月2日に設置された「竹田市新消防庁舎建設懇話会」の様子

消防長 平成20年から消防本部内に「消防庁舎あり方検討委員会」を、昨年から副市長を委員長とする「新消防庁舎建設検討委員会」を設置し検討。場所の選定では、国が定めた「消防力の整備指針」に基づき様々な場所の調査を重ね、最終候補地として、「旧竹田中学校グラウンド、竹田ダム事務所前、飛田川工業団地、大分部品跡地、旧南部中学校グラウンド、現在地」の6箇所をリストアップ。4地域へのアクセス及び久住分署を含めた総合的な移動体制に基づく市内全域への距離等を十分考慮し、現在地とする基本構想を策定した。市民の皆様から幅広く意見をいただくため、竹田市自治会連合会会長をはじめ、4地域から24名の各種団体の代表者による懇話会を設置し、市長が諮問し検討された。懇話会の提言書では、竹田市の水害や各

地域へのアクセス及び距離等を基に、現在地が妥当であるとの答申であった。また、将来を見据えた高度で充実した機能、設備や、可能な限りの早期完成を提言された。

徳永 現場到達時間は変わらない状況だが、今後の救急体制については、消防長 大分大学付属病院のドクターカーや、災害派遣医療チーム「大分DMAT」の要請及び、大分県防災ヘリの活用等に取り組み、24年度から大分県が計画している「ドクターヘリ」の運航に期待している。ほか、道路改良、市道の管理、教育支援、ケーブルテレビ事業について質問した。



森 哲秀 議員

畜産振興について

森 子牛価格の低迷が長期にわたっている。現状をどのように捉えているのか。今後の対策は。

畜産振興室長 口蹄疫や原発事故等による風評被害は、確かにあると考えている。稲わらへの高濃度のセシウムは深刻な問題で、米や野菜等の農産物も同じ状況にある。枝肉価格も半値以下と低迷したが、検査体制

の確立により価格は回復しつつある。対策として、市肉用牛生産振興プロジェクト会議の活動や市長のトップセールスを通じて県外購買者の誘致を進めるなど、一人でも多くの購買者の確保に努め価格上昇を図りたい。

森 但馬牛系の保留及び導入に対して補助金の充実は。

畜産振興室長 市肉用牛生産振興プロジェクト会議で牛群整備とあわせ、但馬系種雄牛の選定と活用方針並びに助成措置について検討中。肉用牛振興6団体の幹事会で内容を詰め、補助金が必要となればプロジェクト会議の三役会で諮り、決定されれば市も予算措置をし推進する。

森 肉用牛繁殖経営支援事業（若返り事業）の充実は。

畜産振興室長 今年62頭と事業が確定しているため、次年度に向け取



市場の様子

り組む。2月に開催される畜産座談会でさらなる周知を図り要望に応じ推進する。

森 今後の畜産振興及び久住高原の景観保全をどう進めていくのか。

市長 生産振興のための基盤づくり生産プロジェクト会議を基軸にして久住高原牛、地域ブランドの強化、イベント等を通じて消費の拡大を図る。国・県と手を取り、輸出を視野に入れ未来型の行動戦略を九州・全国市長会に訴えていく。久住草原と牛の活性化協議会で、牛と草原を知るツアーや野焼きによる都市との交流を推進、11の牧野で防火帯を作り野焼き等で景観保全を図る。



日小田秀之 議員

注目事業と行政サービスについて

日小田 乗合自動車（竹田ミニバス）については、利用者からは「本当に助かる、有難い」等の声をよく聞くが、一方で利用者ならではの切実な要望も数多く寄せられている。竹田の街中には停留所が2か所しかない。通院者からは病院が多く集まる古町の停留所も何とか利用できるようにしてほしいとの要望が多いが、

これまで何度かお願いしているのに実現できないのは何故か。

企画情報課長 この乗合自動車事業は九州陸運局から区域運行の形で許可を受けて実施している。竹田の街中は区域外になるため、停留所の新設・変更等は竹田市地域公共交通会議の承認を得て、陸運局に届け出をしなければならぬ。交通事業者との調整も必要なので、できるだけ早く竹田市地域公共交通会議に諮り、関係者のご理解をいただいて利用者の利便性の向上に努めていきたい。



乗合自動車(竹田ミニバス)

食料品アクセス問題と買物難民、買物弱者対策について

日小田 高齢者の増加や地域の食料品店の急激な減少により、いわゆる買物難民・買物弱者問題が全国的に顕著化している。今般厚労省の委託事業として採択が叶った、地域雇用創造推進事業（新パッケージ事業）

のメニューとも合致すると思うが、リンクさせて官民一体となった取組ができないものか。

企画情報課長 当然新パッケージ事業の中に含まれる範疇のものと思う。竹田市経済活性化促進協議会が取り組んでいる事業の中にも重点項目として構えられているので、こうした問題についても関係機関と連携する中で解決策を探っていきたいと考えている。



井 英昭 議員

はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧の助成について

井 今年から70歳から65歳に対象年齢が広がったが、利用状況がかんばしくない。どうしたら利用が進むかという観点で質問していく。過去3年と本年度現時点での交付状況は。

福祉事務所長 平成20年度は対象者8258人に対して申請者は838人、21年度は8274人に対して801人、22年度は8278人に対して780人となる。本年度8月末時点で対象者1万22人に対し637人の申請となっている。

井 およそ10%前後の申請率になっ

平成23年度	
竹田市はり・きゅう・あん摩 マッサージ指圧施設利用証	
利用証番号	Nº
利用 者 名	
平成23年度	
竹田市はり・きゅう・あん摩 マッサージ指圧施設利用証	
利用証番号	Nº
有効期間	(23年4月～24年3月)
施術年月日	平成 年 月 日
施術担当者	

はり・きゅう・あん摩利用証

ている。この制度は千円券の6枚綴りで6千円分の助成となるが、全部使い切る人は少ないと聞いている。交付した分の利用率はどうなっているか。

福祉事務所長 平成20年度は642人が2553枚を利用し1158枚が未利用、21年度は605人が2392枚を利用し1176枚が未利用、22年度は575人が2218枚を利用し1230枚が未利用であった。

井 今年から対象となった65歳から70歳未満の申請状況は。

福祉事務所長 66人。

井 セッカくの良い制度だが、まだまだ告知が足りていないと思う。どう対処していくか。

福祉事務所長 指摘のとおりなので市報やケーブルテレビを通じて利用をお願いしていく。併せて医療費の適正化への効果も調査研究していく。

井 保険制度や国家資格の関係で調整は必要になると思うが、市民からの要望もあり、利用施設を拡げては

どうか。

福祉事務所長 現状の条例では難しい。井 行政の企画力・調整力に期待し

視察研修報告

総務常任委員会

委員長 森 哲秀

自然と共生し、地域資源を生かしたまちづくり

去る10月4日から北海道の壮瞥町^{そうべつ}を訪れ、行政視察研修を行った。

壮瞥町は、「洞爺湖有珠山ジオパーク」の中心で、その中核施設である「道の駅ぞうべつ情報館i」を訪れた。

ジオパークとは聞き慣れない言葉であるが、大分県でも認定推進の構想があるもので、地球科学的に見て重要な自然遺産を含む、自然に親しむための公園とされている。壮瞥町では、「地形・地質学的に重要で価値のある場所・地質遺産を、ビクターセンター等の資産をわかりやすく解説してくれるガイドなどを通じて、ジオツーリズムを楽しみ、学習し、地域の活性化につなげる取組」ととらえている。

洞爺湖周辺には活動の活発な火山（有珠山など）があり、温泉や美しい景観を与えてくれる反面、噴火活

ている。そのほかに岡城の世界遺産登録について質問した。



動により幾度となく被害を受けてきた歴史がある。この地域のジオパークは、平成12年の有珠山噴火後の新たな地域振興策として、火山との共生などをテーマに地域全体を博物館と見立てたエコミュージアム構想が発端であり、地域特性や地域文化のネットワーク化を進めるとともに、郷土への帰属意識を育み、次世代へと伝承していくことをめざしたものであったが、ジオパークの理念と共通するものが多く、発展的に移行していったとのことだった。災害を前向



そうべつ 壮瞥町での視察風景

きにとらえ、新たな地域づくりへと活用するため、ジオパーク構想を取り入れたことは有効な施策であると感じられた。このような活動を成功させるには住民の参加が不可欠であるが、住民自身が実感を持って取り組むには、行政との情報共有・協働作業が重要である。

このほか、①消防庁舎建設等（白老町）、②定住自立圏共生ビジョン（室蘭市）を視察研修した。

社会文教常任委員会

委員長 佐田 啓二

日本一の桜に学ぶ

青森県弘前市（人口18万2千人）のまちづくりを研修

歴史的風致維持向上計画（以下「計画」という）とは、国土交通省、文部科学省、農林水産省によるそれぞれの事業が自治体の提案によりかなり自主的に行える制度であり、メニューは豊富である。竹田市は平成24年度認定を目指しているため、先進地の弘前市を視察研修した。

弘前市の計画は平成22年に認定された。これを受けて、弘前城をはじめ歴史的風致の維持・向上を図るうえで重要な建造物を歴史的建造物として指定し保存・修復している。修復された建造物は指定管理により活

用されて風情を醸し出している。

また、津軽塗や津軽打ち刃物など藩政時代からの伝統産業・技術は25年前の3分の1までに減少しているが、若者を中心に講習・研修会を行い担い手の継承につなげている。

弘前ねぶたまつり（観客動員170万人）に代表される伝統文化の保存・継承、更には電線の地中化など歴史的風致の周辺環境の整備など、具体的には年間17の補助事業、交付金事業、単独事業を行っている。

弘前市の歴史的風致維持向上の取組の下地は、何と言っても弘前城とそれを取り巻く十萬石城下町の400年に亘る営みの中にあつた。

5月の弘前さくらまつりでは、2週間程度で観客動員201万人という。主要な舞台となる弘前城公園には2600本のソメイヨシノのほか松、紅葉も数多くある。桜の老木が



弘前市での視察風景

議員ふんどう記

第64回県民体育大会を終えて

ソフトボール

ソフト監督 和田 幸生



今年も市議団は、ソフトボール、陸上に参加。盆すぎから練習を重ね本戦に挑む。ソフトボールの1回戦は豊後高田市に快勝（11対2）。2回戦、日田市には楽勝（7対1）。なか一日休み準決勝戦は中津市と戦い僅差で破れはしたが3位で立派な結果。猛暑の中、選手応援の皆さんご苦労様でした。

陸上競技

陸上監督 坂梨宏之進



繁忙な議員活動の合間をぬっての練習であつたので、大会までのウォーミングアップがなかなかできなかった。しかし、当日は倉原教育委員にもご加勢いただきチームワークもぴったりで堂々の6位でゴールイン。さすが竹田市議会の議員達、あつぱれであつた。

古い枝を落とすことで世代交代をして樹齢百年を超え若返るということを初めて知った。公園の維持管理費は10億円という。市職員の2名の樹木医が専属で監視・手入れをしている。

これら全てが相まって弘前市の歴史的風致の維持向上は、進められている。官民連携と協力で事業がスム

ーズに進んでいるようである。都市計画、中心市街地活性化事業、歴史的まちづくり計画等関連する事業なので所管・関係課と十分な連携が必要である。

そのほか、次世代育成支援事業（北海道岩見沢市）図書館機能を有する生涯学習発信基地「ゆめつく館」（北海道由仁町）を視察研修した。

平成23年第3回定例会（平成23年9月5日～26日）

議案・請願・意見書等の議決結果

議案第79号	平成23年度竹田市一般会計補正予算（第4号）について	可	決
議案第80号	平成23年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算（第1号）について	可	決
議案第81号	平成23年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算（第1号）について	可	決
議案第82号	平成23年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について	可	決
議案第83号	平成23年度竹田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について	可	決
議案第84号	平成23年度竹田市介護保険特別会計補正予算（第1号）について	可	決
議案第85号	平成23年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）について	可	決
議案第86号	平成23年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）について	可	決
議案第87号	平成23年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算（第2号）について	可	決
議案第88号	平成23年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計補正予算（第1号）について	可	決
議案第89号	竹田市教育委員会委員の任命について	同	意
議案第90号	竹田市電源立地地域対策交付金基金条例の制定について	可	決
議案第91号	竹田市子育て定住促進住宅の設置及び管理に関する条例の制定について	可	決
議案第92号	竹田市職員の給与に関する条例等の一部改正について	可	決
議案第93号	竹田市ケーブルネットワーク施設条例の一部改正について	可	決
議案第94号	竹田市税条例の一部改正について	可	決
議案第95号	竹田市都市計画税条例の一部改正について	可	決
議案第96号	竹田市基金条例の一部改正について	可	決
議案第97号	竹田市市営住宅条例の一部改正について	可	決
議案第98号	字の区域の変更について	可	決
議案第99号	指定管理者の指定に関する件について	可	決
認定第1号	平成22年度竹田市水道事業会計決算の認定について	認	定
請願第5号	白丹小学校の「複式学級における授業改善」及び「特色ある学校づくり」のための市費負担教員配置についての請願	採	択
請願第6号	市道「添ヶ津留産山線」の改良に関する請願	採	択
請願第7号	地方財政の充実強化を求める意見書採択についての請願	採	択
請願第8号	和牛の導入並びに保留牛に関する請願	採	択
意見書案第3号	地方財政の充実・強化を求める意見書	可	決
意見書案第4号	中九州・東九州地域的高速道路網の整備促進を求める意見書	可	決
認定第2号	平成22年度竹田市一般会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第3号	平成22年度竹田市同和対策事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第4号	平成22年度竹田市立こども診療所特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第5号	平成22年度竹田市畜産開発事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第6号	平成22年度竹田市長湯温泉療養文化館特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第7号	平成22年度竹田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第8号	平成22年度竹田市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第9号	平成22年度竹田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第10号	平成22年度竹田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第11号	平成22年度竹田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第12号	平成22年度竹田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第13号	平成22年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第14号	平成22年度竹田市国民宿舎久住高原荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続
認定第15号	平成22年度竹田市国民宿舎直入荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継	続

市議会 ホームページ

本会議の会議録や議会の日程、質問項目、議会のしくみと役割など様々な情報を掲載しています。



竹田市議会

で

竹田市議会

http://www.city.taketa.oita.jp/gikai/

お問い合わせは議会事務局まで ☎63-4813

あとがき

今年最後の議会だよりとなる。3月の東北の大地震。大津波・原発事故。深刻なのは、まだ収束のメドもたない放射能被害。世界にまだ放射線防御の技術は確立されていないという。もうすぐ8か月になるというのに保障問題も解決していない。あの不幸な災害からのがれて助かった命。やがて極寒の冬が来る。多くの弱者が危険にさらされている。国は総力をあげて、ありとあらゆる力を結集して、今後一人の犠牲者も出さないようにすることを願う。

（編集委員長 河野泰浩）